

古今和歌六帖語彙頻度表解説

近藤みゆき

本資料はこの解説を含めて3本のファイルからなる。

- 1 本解説 PDF 文書 kokinwakarokujo-hindo-manual.pdf
- 2 古今和歌六帖一度語一覧テキストファイル kokinwakarokujo-01.txt
- 3 古今和歌六帖語彙頻度表エクセルファイル kokinwakarokujo-hindo.xlsx

3 から、頻度 1 の語だけを抜き出したものが 2 であるので、本来 2 は必要がないとも言える。ここで 2 を特立した意味は、本資料を用いて執筆された近藤みゆきの論文において「一度語」という概念を用いて、それらを「六帖特異語」として位置づけていることによる。「一度語」は、あからがしは・あまはねずみ・しぐれごち・しろあさごろも・たどたどし・ちからぐるま・てりみつ・ななぐるま・ねじけびと・いたさわぐ・はなのはなのひ・ひたくれなる・ふたごもり・ふゆがくれ・ほどほどしく・まだらふすま・むまくひやま・をさをさしく、など、万葉語や、通常の和歌では用いられない語など、文字通り『古今和歌六帖』の特異語が集中しており、見るべき用語が集中していることから、特にファイルとして作成した。

本ファイルは、宮内庁書陵部蔵桂宮本の『古今和歌六帖』（新編国歌大観の底本）の翻刻文を手作業で単語に分解し、それをもとにコンピュータで作成したものである。したがって、単位としてはいわゆる単語となっており、文字 N-gram 等の文字列分析ではない。また、『古今和歌六帖』は非常に珍奇な語彙が使われていることでも有名であり、また、本文も永青文庫本（文禄四年奥書）一本を除いてはすべて近世のものしか残されておらず、誤写なども少なくない。したがって、一度語などの頻度が低い語彙の中には、はたしてどういう語なのか判定に迷うものも含まれているが、本ファイルではあえて、それらの「語」も収載してある。

なお、このような頻度語彙表、特に一度語のように特異な語は、その作品の特

性を表している。『古今和歌六帖』の場合は、万葉集に用いられた語彙やその他、平安時代語としては極めて特殊な語彙を含む。それらの日本語学的研究も重要である。また、それらの語彙を後代のどのような歌人が用いているかを調査することで、それぞれの作歌の特性を明らかにすることも可能になる。この具体的方法については、近藤みゆき（参考文献）を参照されたい。

なお、本資料はクリエイティブコモンズ表示・非営利 2.1 に基づいて自由に用いてよいが、著作権は近藤みゆきが保有する。研究に用いた際には、本資料を用いた旨を明らかにしていただければありがたい。

（参考文献）

近藤みゆき「古今和歌六帖の歌語一データベース化によって見た歌語の位相一」
（小町谷照彦・三角洋一編「歌ことばの歴史」笠間書院・1998）（近藤みゆき『古代後期和歌文学の研究』風間書房・2005・所収）